

令和3年11月19日
(2021年)

保護者の皆様

吹田市立千里第二小学校
校長 佐野 賢治

令和3年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。



1. 教科に関する調査結果と分析

国語

《概要》

- ・正答率は全国値を上回っている。
- ・正答数分布は、11問（14問中）を頂点とする得点の高い右よりの山形を描き、9問以上の正解者が75%以上おり、全国値と比べて高位層が多く低位層が少ない。

<話すこと・聞くこと>

- ・正答率は全国値を上回っている。
- ・「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」ことが十分できている。
- ・資料の目的を理解したり、目的や意図に応じ資料を使って話したりすることができている。

<書くこと>

- ・正答率は全国値を上回っている。
- ・自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考慮することができている。
- ・目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが十分できている。
- ・目的や意図に応じて、理由を明確にし、書きまとめる記述問題では、無回答率がやや高かった。また、指定された文字数は満たしているものの、条件に沿った内容となっていないために不正解となったものが2割ほどいる。

<読むこと>

- ・正答率は全国値を上回っている。
- ・文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することが十分にできている。
- ・目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけたり、中心となる語や文を見つけて要約したりする問題では、正答率が全国値より上回っているものの、全体の正答率は低く、無解答の児童も一定数いる。

<言葉の特徴や使い方に関する事項>

- ・思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができている。
- ・漢字を文の中で正しく使うことができている。ただ、「転がる」「積み重ね」「原因」の中で、4年生の漢字であるにもかかわらず「積み重ね」の正答率が最も低かった。
- ・文の中における主語と述語との関係や、修飾と被修飾との関係を捉えることが十分できている。

★国語科における成果と今後の指導改善点について

【話すこと・聞くこと】

- ・話すこと・聞くことの基本的な内容は理解できている児童が多いです。自分の考えを伝えるために、自分の立場や結論を明確にし、事実と意見を区別しながら話の構成を考えることは重要です。今後は、内容をさらに明確に伝えるために、目的や意図に応じて資料を活用し、相手をいっそう意識して話したり、聞いたりする学習活動を取り入れていきます。



【書くこと】

- ・ふだんの授業の中で、自由に自分の意見や感想を書くことはほとんどの児童ができています。しかし、字数制限や必要な条件を満たして書く問題になると、苦手に感じる児童がいます。今回の調査でも、2つの条件を満たして書くところを、1つしか満たしていない児童が多くいました。日頃から、書く相手や目的を明確にし、複数の条件を満たして文章を書く学習を取り入れていきます。
- ・文章を書くこと自体を苦手とする児童もいます。そのような児童には簡単で短い文章から少しずつ書けるようにきめ細かく指導していきます。

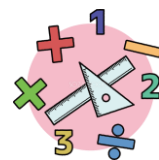
【読むこと】

・読み取った内容を選択式で答えることは多くの児童ができています。しかし、読み取った内容をもとにして記述する問題になると手が止まってしまう児童がいます。「書く」につなげるために、読み取った内容から必要な情報を取捨選択し、それらを関連させながら端的に文章をまとめる力をつけるように指導していきます。また、「読む」力をつけるために、段落ごとの要旨を簡潔にまとめたり、段落の役割や関係性を考えながら筆者の意図をまとめたりする指導をしていきます。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

- ・「積」「績」など、まぎらわしく間違いやすい漢字は、意味の違いをはっきりさせながら児童の理解を深め、反復練習を通して定着を図っていきたくて考えています。
- ・日頃から国語辞典を引く習慣を身につけさせ、子どもの語彙力を豊かにしていきたいと考えています。
- ・学習した漢字や語彙を実際の文章の中で正しく活用できるように、作文指導等にも力を入れていきます。

算 数



《概要》

- ・正答率は全国値を上回っている。
- ・正答数分布は、15問（16問中）を頂点とする得点の高い右よりの山形を描き、11問以上の正解者が8割以上おり、全国値と比べて高位層が多く低位層が少ない。
- ・記述式の問題に関して、無解答にせず、何らかの解答を書こうとする姿勢がみられる。

<数と計算>

- ・正答率は全国値を上回っている。
- ・二つの道のりの差の求め方と答えを記述することが十分にできている。
- ・わり算を日常生活の場面に適用することができている。
- ・問題場面から数量の関係を捉えてわり算の式に表し、計算することが十分にできている。
- ・小数を用いた倍についての説明を解釈し、記述で説明することが十分にできている。

<図形>

- ・正答率は全国値を上回っている。
- ・三角形の面積を求めることは十分にできている。
- ・複数の図形を組み合わせた図形について考察することができている。
- ・複数の図形を組み合わせてできた平行四辺形について、面積の求め方と答えを記述することについては、正答率が全国値より上回っているものの、全体の正答率は低く、図形の構成要素に着目し筋道立てて記述する点に課題がみられる。

<測定>

- ・正答率は全国値を上回っている。
- ・条件に合う時刻を求めることができている。

<変化と関係>

- ・正答率は全国値を上回っている。
- ・速さの問題で、道のりと時間の関係について考察することができている。
- ・速さを求める式の意味理解が十分にできている。
- ・速さと道のりをもとに時間を求める式にあらわすことができている。

<データの活用>

- ・正答率は全国値を上回っている。
- ・棒グラフから、数量や、項目間の関係を読み取ることができている。
- ・データを二次元の表に分類整理することが十分できている。
- ・複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合の記述が十分できている。
- ・集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することが十分できている。

★算数科における成果と今後の指導改善点について

【数と計算】

- ・「 $4 \div 8$ 」とすべき式を「 $8 \div 4$ 」としている誤答が一定数ありました。問題文の個々の数字が何の数を表しているのかを確かめたり、何の数が問われているのかを捉えたりすることをおろそかにせず、確実に理解する必要があります。また、この設問のように図や絵が与えられていない問題については、自分で図などを使って問題場面を適切に捉えることが重要で、今後の指導に生かしていきます。
- ・1つの解答方法や理由を書けば問題を解決したように感じ、いくつかの条件を書かなければいけない時に、正答に結び付かない児童がいます。また、他の方法でも解くことができないかを考える習慣がつくように指導していきます。

【図形】

- ・平行四辺形の面積を求めるには底辺と高さが分かればよいのですが、調査問題では斜めの辺の長さも書かれています。斜めの辺の長さを高さと同様に計算し、誤答となった児童がいます。面積を求める公式の意味理解を確かなものにするとともに、問題を解くために必要な情報を選び出す（不要な情報は選ばない）力が求められており、ふだんからそういった問題にも取り組ませていきます。
- ・朝の学習の時間を利用して基礎・基本の問題を反復練習し、基礎学力のさらなる定着を目指します。
- ・図形の学習の際には、具体物を手に取って図形を動かしたり、タブレット端末を活用したりする中で、試行しながら学ぶ時間を十分に確保します。

【測定】

- ・道のりの差の求め方と答えを記述する問題では、答えに至るまでの記述が言葉足らずで不正解になる児童が多いです。筋道立てて、必要な数字をすべて使って、ある程度まとまった量の文章を書く学習を取り入れていきます。
- ・基本的な時刻の問題については、正答率も高く、基本的な力が身につけている児童が多いです。しかし、無解答率も全国値を上回っており、基本的な力が身につけていない児童も一定数います。基礎基本の反復練習も行っています。

【変化と関係】

- ・公式に当てはめて解答する問題では正答率が高いです。
- ・実生活と関連付けて公式を適用できないかと思ったり、単元の終わりにある発展問題を活用したりするなどして、学習内容の習熟をはかっています。

【データの活用】

- ・児童にとってなじみのある棒グラフの問題では正答率が高いですが、二次元表、帯グラフの問題では、正答率が低いです。設問自体に難解さはなく、それらの表やグラフに普段から見慣れているかが正答率に関係していると考えられます。他教科の学習も含め、さまざまな表やグラフを見る機会をもちます。
- ・長文の問題になると、グラフを読み取ることはできていても、問われている内容を正しく理解できなかつたり、勘違いして解答していたりすることが多くなります。このことから一問一答の問題はできても、文章を読んだり相手の話を聞いたりした後にその内容を吟味し、聞かれていることに正対した返答をすることに課題があるといえます。設定した問題に対して集めるべきデータを判断できるようになる力が求められており、そういった学習を取り入れていきます。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査結果と分析

■は課題 □は良好



<規範意識、自己有用感等>

- 「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答が多い。
- 「人が困っているときは、喜んで助けていますか」に対して、肯定的な回答が多いものの、全国値と比較すると少ない。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、ほとんどの児童が肯定的な回答をしている。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な回答が多いものの、全国値と比較すると少ない。

※傾向と今後の改善のポイント

将来の夢や目標を持ち、自分でやると決めたことはやり遂げるようにしている児童が多いです。また、いじめについて、昨年度から始めたいじめ予防授業により、いじめはどんな理由があってもいけないことだという意識が強まったものとみられます。

そのいっぽうで、進んで人と関わろうとしたり、自分も他者も大切にしたりすることについて課題があり、また難しいことでも失敗を恐れずに挑戦することを苦手としている児童がいます。今後できる範囲で行事などを充実させ、友だちと助け合ったり協力したりする体験を積みませ、できたときに褒めることを大切にしていきます。

<家庭・地域>

□「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」に対して、肯定的な回答が多い。

■「新聞を読んでいますか」に対して、「ほとんど、または、全く読まない」との回答が多く、全体として新聞を読んでいる児童が少ない。

■「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対して肯定的な回答が少ない。

※傾向と今後の改善のポイント

基本的な生活習慣は身につけており、約束を守って機器を使っている様子がかえります。そのいっぽうで、約束を守れていない、約束がない、といったトラブルにつながりかねない回答も一定数あり、ご家庭と連携しながら指導していく必要があります。

また、読書体験が豊かであるわりには、新聞は読まれていません。他のメディアでもいいので、時事に関心を持ち、社会で起こっていることと今学習していることとを結びつけて考えられるようにしていく必要があります。

地域行事については、行事そのものが少なくなっている現状がありますが、例年の状況に戻れば、地域行事の紹介や参加呼びかけを行っていきます。

<学習習慣>

□土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日2時間以上勉強している児童の割合が、全国値を上回っている。

■平日でも1日の勉強時間が30分より少ない児童の割合が全国値を上回っている。

※傾向と今後の改善のポイント

授業以外の自主的な勉強に取り組まない（取り組めない）原因を探り、個別に勉強方法を助言したり、スモールステップで取り組めるよう支援したりすることで、家庭学習の定着を図っていく必要があります。

<ICT機器>

□5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器を「週1回以上」使用した児童の割合が、全国値を上回っている。

□コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために「週1回以上」使用した児童の割合が、全国値を上回っている。

※傾向と今後の改善のポイント

1人1台が実現し、日常的に授業でコンピュータなどのICTを使うことが増えており、それが今回の調査結果に出たようです。授業内容に照らしてより効果的な使い方を考えていきます。

<授業全般>

- 「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」に対して、肯定的な回答をしている児童が多い。
- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対して、肯定的な回答をしている児童が多い。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」に対して、肯定的な回答をしている児童が多い。
- 「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」に対して、肯定的な回答をしている児童が多い。
- 「5年生までに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか」に対して、肯定的な回答が多いものの、全国値と比較すると少ない。

※傾向と今後の改善のポイント

自分の考えを学級の中で聞いてもらい、自分や学級が前に進む経験を今後とも続けられるように取り組んでいきます。

また、1人1台のタブレット端末を生かして個別に取り組む活動を行うとともに、グループや学級全体で友だちの意見を聞き、自分の意見を伝える活動とのバランスをとりながら授業を展開していきます。

<教科学習>

- 「国語の勉強は好きですか」に対して肯定的な回答が多い。
- 「国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか」に対して肯定的な回答が多い。
- 「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか」に対して肯定的な回答が多い。
- 「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか」に対して肯定的な回答が多い。
- 「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか」に対して肯定的な回答が多い。
- 「これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか」に対して肯定的な回答が多い。
- 「英語の勉強は好きですか」に対して肯定的な回答のほうが多いものの、全国値と比較すると少ない。



※傾向と今後の改善のポイント

全体として、国語の学習が好きで、授業中で行われる活動について、自分ではできていると考えている児童が多いです。この傾向を維持するように、授業研究を進めていきます。算数についても、ほぼ全国値と同じような傾向があり、算数の学習が大切で、自分ではできていると考えている児童が多いです。

英語に関しても関心が高く、先生やAETに積極的に英語を使って自分のことを話しに行く児童が多くいます。そのいっぽうで、場が与えられれば英語でコミュニケーションをとろうとしますが、十分に自信が持てず、失敗を気にしたりするなど苦手意識を持っている児童が一定数います。AETやICTを活用し楽しく英語を学べる授業づくりを続けます。また、中学英語にスムーズに接続できるように、英語の音声やアルファベットなどの基礎学力の定着をはかり、児童が自信をもって取り組めるように指導していきます。

<コロナ関連>

□「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか」に対して肯定的な回答が少ない。

■「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか」に対して肯定的な回答が少ない。

※傾向と今後の改善のポイント

休校期間中、勉強に不安を感じる児童が少なかったのはご家庭の協力がたいへん大きかったと捉えています。休校期間はともすれば生活リズムが不規則になりがちですが、今後同様の状況になればタブレット端末を生かして朝の会をするなど、できるだけ生活リズムを維持するようにしていきたいと考えています。



3. 今後の学力向上の取り組み

教科に関する結果を踏まえ、記述力については、授業や生活のなかで取り組まなければならないことをあらためて確認しました。児童は自由に感想を述べ合ったり、自分の周りに起こった出来事を書いたりすることにはよく取り組んでいます。その反面、文章を要約したり、キーワードを落とさずに一定量の記事を書いたり、示された型に沿って筋道立てて書いたりすることには課題があります。国語・算数だけでなく他の学習においても、そのような書く時間を大切にしていきます。

また、生活環境や学習習慣等の結果を踏まえ、自分で考えて行動したり友だちと協力し合ったりすることを大切に、それらができたときに小さなことでも褒めて自信を持てるように指導していきます。

本調査から見てきたさまざまな課題解決に向けては、ご家庭と学校との連携が大切です。今後とも保護者の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。